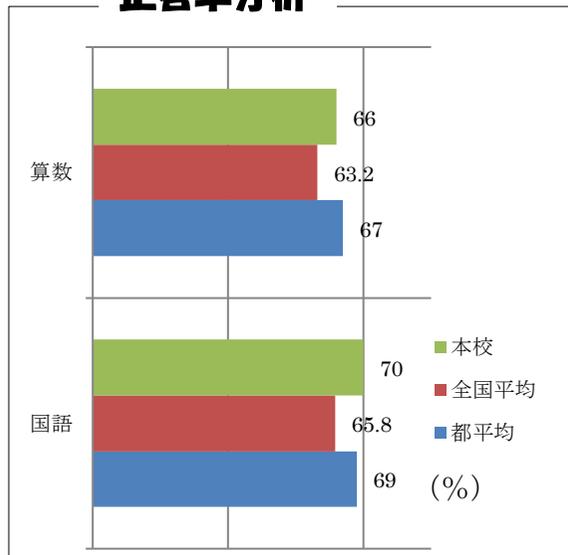


令和4年度全国学力・学習状況調査(6年生)結果の分析について

江戸川区立東葛西小学校

正答率分析



観点別正答率

		国語 (%)				算数 (%)					
		知識・技能	話す・聞くこと	書くこと	読むこと		数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
国語	本校	77.9	70.8	48.5	68.8	算数	本校	70.3	66.9	54.4	74.8
	都	72.0	69.1	51.3	72.1		都	72.1	68.6	57.6	72.4
	全国	70.5	66.2	48.5	66.6		全国	69.8	64.0	51.3	68.7

調査問題と分析

- 〈国語〉
- 2二 物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の に入る内容を書く
⇒人物像や物語の全体像を具体的に想像して読み取り、前後の文章の内容に合うように表現を工夫して書くことができない。
- 3二 【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを見つけて書く
⇒複数の資料を読んで、その文章のよさを見付け、適切な表現で書き表すことができない。
- 〈算数〉
- 1 (4) 85×21 の答えが 1470 より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ
⇒示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することができていない。(数と計算、思考・判断・表現)
- 2 (3) 果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ
⇒数量が変わっても割合は変化しないということを理解できていない。(変化と関係、知識・技能)

○全体の傾向

- ・国語の平均点は全国と都の正答率を上回っている。
- ・算数の平均点は都の正答率を下回っている。
- ・全国、都平均に比べ、無回答率が低いが、記述式の問題では無回答率が上がっている。

○上位層・下位層

- ・本校において、上位層と下位層の開きは少ない傾向にある。

○教科の内容

- ・国語では「書くこと」「読むこと」において、都の平均値を下回っている。
- ・国語の短答式と記述式の問題で無回答率が高い。 } 記述式問題に苦手意識がある。
- ・国語の記述式の問題で正答率が低い。
- ・算数では「数と計算」「図形」「変化と関係」において、都の平均を下回っている。
- ・算数の記述式の問題で正答率が低い。また、無回答率が高い。

学 校

○短期的

- ・誤答の多かった問題をやり直したり、類似問題を解いたりする。
- ・漢字ドリルを活用し、定期的に小テストに取り組み、書けない漢字は繰り返し練習させる。
- ・計算ドリルを繰り返し取り組み、苦手な単元の克服ができるようにする。

○中・長期的

- ・朝読書で本を継続的に読む習慣を身に付けさせる。
- ・普段から文章にサイドラインを引かせる習慣を付け、重要な内容を読み取り、書き抜けるように指導する。
- ・東京ベーシックドリルを活用し、前学年の学習内容の定着を図る。定着度の低い内容に関しては、指導方法を工夫していく。また、学期ごとに校内学力テストを実施し、結果の分析から児童の学力状況の変容を見取り、指導の改善に役立てる。
- ・各学年で毎学期、漢字のまとめテストを行い、漢字の定着を図る。
- ・放課後補習の時間を使い、苦手な学習内容を児童が克服できるようにしていく。

家 庭

○日常的な取り組み

- 全国学力・学習状況調査(小6国語・算数)における国の分析結果では、「家庭学習をしている児童ほど国語、算数とも正答率が高い傾向がある」とされている。
- よって各学年における発達段階を考慮した上で、以下の内容の宿題を各学年に共通して取り組ませていく。
- 〈家庭学習の目安〉 学年×10分
- ・漢字練習 1ページ以上
 - ・計算ドリル 1ページ
 - ・その他教科の宿題など